

FUKUI TRUCK ASSOCIATION
THANKS
50th

もっと強く、もっと優しく

50周年記念史



社団
法人

福井県トラック協会



もっと強く、もっと優しく

昭和23年から始まった50年。

前半の四世紀半は、高度経済発展を遂げた日本社会を支えるため、
体力的な「強さ」を求めた歴史でした。

私たちは、先人達はその偉業に改めて大いなる誇りを覚えます。

後半は地球、社会環境への「優しさ」が求められる時代へと。

歴史が教えてくれたのは、「強さと優しさ」。

その共存こそが、21世紀を迎える私たちに必要なテーマなのです。

新時代の物流に的確に応えるための「強さ」。地球環境を考える「優しさ」。

私たちは、このテーマを掲げ、トラック協会全会員事業所が一丸となり、

英知を結集しながら切磋琢磨し、

21世紀の未来に向かって大きく飛躍していきます。

ごあいさつ



社団法人福井県トラック協会 会長

藤尾 繁郎

社団法人福井県トラック協会創立50周年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

私どもトラック運送事業が、我が国物流の基幹産業として確固たる地位を築き、我が協会会員事業所も392を数え、今日の隆盛をみていることは、関係各位および会員各位のご協力の賜物と、厚くお礼を申し上げます。

また、永年に亘って、当協会の発展にご尽力を賜りました歴代会長をはじめ、役員の方々にも深甚なる感謝を表します。

当協会は、昭和23年1月戦時統制団体の運送事業協同組合の解散に伴い、貨物自動車運送事業を営む12事業者で創設、また昭和25年2月には、貨物運送事業者に広く働きかけて組織の拡充を図り、更に昭和49年9月には、名古屋陸運局長から、社団法人設立の許可を戴き、今日に至る基盤を確立したのであります。

顧みますと、創立期は戦災で焦土と化した混乱期に加え、福井市を中心に死者3,700余名におよぶ福井大震災、38豪雪等度重なる災害やモノ不足の中にあつて、幾多の苦難・辛苦は、今をして想像を絶するものがあつたと考えられます。その後は、日本経済の高度成長と道路網の整備、さらには国民生活の多様化に支えられて、トラック運送業界も飛躍的な発展をみえています。この間我が業界も、常にその時代の要請に応じて、弛まない努力を重ねて参りました。

現在では、トラック運送が物流の主役として、国民生活と我が国産業経済を担う基幹産業として、高く評価されるに至っております。しかしここに来て、日本経済は長引く景気低迷に加え、規制緩和・経済システムのグローバル化で、かつてない大転換期を迎えています。トラック運送事業も厳しい試練にさらされています。

私どもは、先人達が築いた50年の足跡を尊い教訓に21世紀を見据え、決意も新たに全事業所が一致協力して、物流を担う社会的使命の遂行に邁進する所存であります。

今後とも、関係各位のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

祝 辞



福井県知事

栗田 幸雄

社団法人福井県トラック協会が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和23年1月に発足され、以来半世紀にわたり、トラック輸送事業の健全な活動を通じ、本県経済の発展に多大の貢献をされてきたことに対し、深く敬意を表するものであります。

また、昨年のロシアタンカー重油流失事故に際しましては、災害用物資の緊急輸送等を通じ被災地の復旧、救援活動にご協力いただいたところですが、その功績は運輸大臣から感謝状が送られましたように誠に多大であり、ここに厚くお礼申し上げる次第であります。

さて、景気の先行きが不透明な中、トラック輸送事業を取り巻く環境は厳しいものと認識いたしておりますが、物流に対する利用者のニーズはますます高度化・多様化しており、経営基盤の強化とともに質の高い輸送サービスの提供が求められております。

貴協会におかれましては、約四百社からなる会員各位と一体となって、今後とも物流の効率化、近代化を推進され、業界全体の発展に努められますとともに、交通安全対策や環境保全対策などに積極的に取り組まれ、本県経済の発展に一層貢献いただくことを期待いたしております。

県におきましては、昨年末、新長期構想「福井21世紀ビジョン」を策定したところですが、この構想を実現するためには、県民、事業者の皆様方の御理解、御協力が不可欠であり、とりわけ本県の物流を支えておられる貴協会ならびに会員各位のさらなるお力添えをお願い申し上げます。

終わりに、福井県トラック協会ならびに会員各位が、この創立50周年を一つの契機として、来るべき21世紀に向け力強い第一歩を踏み出され、今後ますます発展されますよう祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。

祝 辞



中部運輸局長

磯田 壯一郎

このたび、福井県トラック協会におかれましては、創立50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和23年1月に福井県トラック協会を設立され、さらに昭和49年9月に社団法人として設立されましたが、この間、幾多の困難を克服しつつ、トラック業界の輸送体制の整備、輸送の安全確保につとめられるとともに、福井県トラック事業厚生年金基金の設立及び福井トラック総合研修会館の建設など多角的な事業活動を推進され、トラック業界の健全な発達に大きく貢献してこられました。そのご労苦に対し、中部運輸局といたしましても深く感謝の意を表するものであります。

ご承知のとおり、トラック輸送は、我が国物流の基幹的輸送モードとして、国内貨物輸送の大宗を占めており、多様化・高度化する顧客ニーズに対応し、産業経済の発展と国民生活の向上に重要な役割を果たしております。

しかしながら、トラック輸送を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、社会経済の変化に対応した輸送の効率化、経営基盤の強化、利用者ニーズに対応したサービスの多様化、労働条件の改善、環境問題への取組みなどが強く求められています。

このような情勢に対応して、トラック輸送は、物流コストの低減化を図るため、より効率的な輸送体系を確立することが緊急の課題であり、中小企業が大半を占めるトラック運送事業は、経営の近代化と体質の強化を図ることが強く要請されているところであります。

このためにも、貴協会が平成5年度から着手されておられます「社会ニーズ対応型」構造改善事業の積極的な推進が一層必要とされるところであります。また、輸送秩序の改善をはじめ、交付金事業の運営等についても、さらに効果的な推進が図られますことを期待いたしますとともに、トラック運送事業の発展と社会的使命の達成のためにご尽力いただきますことを念願しております。

私どもといたしましても、これからの課題の解決に向けて諸施策の推進に皆様と共に努力してまいりたいと存じます。

最後に、貴協会並びに会員の益々のご隆盛を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



福井労働基準局長

飛鳥 滋

(社)福井県トラック協会が、記念すべき創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和23年1月に設立され、以来今日まで、トラック運送事業が社会のニーズに的確に対応する輸送活動が展開できるよう、また、労働災害の防止、労働時間の短縮を始め、当局における行政全般にわたるご支援とご協力の等々、幅広い活動を展開してこられました。

そうした活動の成果は、トラック運送事業の飛躍的発展、自動車運転者等の労働条件の改善等にあらわれているところであります。

貴協会が、これまで本県の発展に果たしてこられた役割は極めて大きなものがあり、ここに輝かしい50周年の記念すべき年を迎えられましたのも、歴代の会長を始めとする関係者の皆様の並々な情熱とご努力の賜物と心から敬意と謝意を表する次第であります。

昨年、お陰様で、私供の労働基準行政も、創立50周年を迎えることができましたが、これも一重に貴協会を始めとする関係の皆様の深いご理解とご協力があればこそと深く感謝いたしております。今、我が国の経済社会は、来る21世紀に向けて大きな転換期にあり、経済活動の国際化や経済構造の変化に加えて、労働者の就業意識や働き方が変化していく中で、こうした変化や時代の要請に応え、新しい視点に立っての行政展開が求められて降ります。

このような情勢の下、私供といたしましては、「社会と共生し、環境にやさしいトラック運送」の実現に向け、新たな時代に即応した活動を展開されている貴協会との連携、協力がこれまで以上に重要なものと認識し、貴協会とのなお一層繁密な連携の下に、斬新で創意を凝らした行政の展開に努めてまいりたく存じております。この点につきまして、ご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年を節目として、貴協会が、創造性に富み、活力ある21世紀の福井県づくりを目指す先進集団として力強く活動を展開される中で、益々発展されますことをお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

祝 辞



社団法人全日本トラック協会 会長

浅井 時郎

社団法人福井県トラック協会が、本年をもって創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

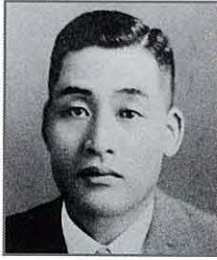
貴協会は、昭和23年に福井県トラック協会として発足、同49年に社団法人を取得、社団法人福井県トラック協会となり、現在では、傘下8支部、所属会員392社を数えるに至っております。この今日の隆盛に導いたのは、歴代役員、会員のご努力並びに藤尾現会長をはじめとする役員、会員の皆様様の並々ならぬご尽力の賜物と心より敬意を表わすものであります。

トラック運送事業は、時代とともに変化する物流ニーズに適切に対応して、今日では、物流の主演として、国民生活の安定と我が国産業経済の発展を支える重要な役割を果たしており、このことは、昨年の総合物流施策大綱においても高く評価されております。しかしながら、物流は、規制緩和や産業空洞化の進展の中で、大きな転換期を迎えております。業界を取り巻く経営環境は、景気の停滞色が強まるなか輸送需要の伸びは期待できず、荷主企業の物流コスト削減要求により運賃水準の維持は困難となっており、さらに輸送効率化のための諸施策の推進、規制緩和対応、週40時間労働制移行への取り組み、交通安全の確保、環境問題への対応、事業の近代化対策、急速に進展する情報化対応など、取り組まなければならない幾多の課題が山積しており、トラック協会の果たす役割は、一層大きく重要なものとなっております。

福井県は、北陸自動車道の開通等道路網の整備により中部・近畿のみならず周辺経済圏との繋がりはますます広がりをみせており、なお一層の発展が見込まれております。ロシアタンカーナホトカ号の座礁事故時における貴協会の地域への貢献は、マスコミなどにより大きく取り上げられ、さらに運輸大臣からも感謝状を授与されましたが、このように、貴協会が地域社会にしっかりと根をおろし、地域社会の活性化、地域住民の生活向上に役立つトラック協会として、ますます活動を充実されることをご期待申し上げます。

貴協会におかれましては、この歴史ある50周年を一つの節目として、諸課題の解決に向かって更なるご努力を賜りますことをお願い申し上げますとともに、貴協会のますますのご発展と藤尾現会長をはじめ役員並びに会員各位の事業の限りないご繁栄を祈念致しましてお祝いの言葉といたします。

歴代会長



初代

森田 左武郎

[福井急行トラック(株)社長]

在籍/昭和23年1月～昭和25年2月



第2代

巨椋 初蔵

[福井急行トラック(株)社長]

在籍/昭和25年2月～昭和31年7月

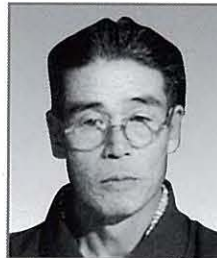


第3代

藤崎 梅太郎

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和31年7月～昭和33年1月



第4代

福井 直

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和33年1月～昭和35年5月



第5代

川合 輝雄

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和35年5月～昭和38年2月



第6代

石藤 一三

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和38年2月～昭和39年3月



第7代

山口 政隆

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和39年3月～昭和42年2月



第8代

木村 藤一郎

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和42年2月～昭和42年8月



第9代

稲垣 利貞

[日本通運(株)福井支店長]

在籍/昭和42年8月～昭和45年2月



第10代

藤尾 定尾

[福井貨物自動車(株)社長]

在籍/昭和45年2月～昭和62年5月



第11代

岩岡 正徳

[富士運送(株)社長]

在籍/昭和62年5月～平成6年12月

役員名簿

	第12代 会長 藤尾 繁郎 [福井貨物自動車(株)社長] 在籍/平成6年12月~現在
---	---

	副会長 岡島 英雄 [王子フクイ輸送(株)]
---	--

	副会長 門田 恭介 [日本通運(株)福井支店]
---	---

	副会長 後藤 閑 [春江貨物(有)]
---	--

	副会長 米澤 賢治 [敦賀海陸運輸(株)]
---	---

	理事 澤 聡雄 [日本トラック(株)福井支店]
---	---

	理事 齊川 忠男 [北陸齊川運輸(株)]
---	--

	理事 中川 信 [(株)ナカガワ]
---	---------------------------------------

	理事 平木 正廣 [日本商運(株)]
---	--

	理事 佐々木 一成 [福貨通運(株)]
---	---

	理事 気谷 好生 [トナミ運輸(株)福井支店]
---	---

	理事 鷹羽 弘行 [(株)ミツノリ]
---	--

	理事 北島 継治 [芦原運輸(有)]
---	--

	理事 山内 登子雄 [福井陸運(株)]
---	---

	理事 片粕 廣幸 [ミナトヤ運輸(株)]
---	--

	理事 山内 信雄 [名神運輸(株)]
---	--

	理事 万所 喜代元 [マルツ運輸(株)]
---	--

	理事 荒殿 猛男 [高浜運送(株)]
---	--

	専務理事 古野 登 [(社)福井県トラック協会]
---	--

	監事 坪田 和美 [坂井運輸(株)]
---	--

	監事 中村 孝 [中村運輸(株)]
---	---------------------------------------



(社)福井県トラック協会

50年 のあゆみ

空襲、大地震。そんな荒廃と混乱の時代に、
福井県トラック協会は誕生しました。

懐かしいオート三輪のこと。

空前の高度経済発展を支えた時代のこと。

二度の石油ショックなど、多くの苦難を乗り越えてきたこと。

幾多の豪雪のなか、社会のライフラインを支えようと努力し続けたこと。

まさに激動の時代を、トラックは走り続けてきました。

この50年の歴史は、私たちに未来へ進む勇気と英知を教えてくださいます。

昭和23年 ▶ 昭和32年

第1期

昭和23年1月

戦時統制団体であった福井県貨物自動車運送事業協同組合を発展に解散し、関係12業者が集まり福井急行トラック(株)社長 森田左武郎氏が発起人となり(社)福井県トラック協会の前身となる福井県トラック協会を創立、同氏が会長に就任
福井市二ノ丸町7番地に協会事務所を置く

昭和23年6月

福井大震災発生、死者3,769名、全壊家屋36,000戸、震度M7.2
焼死体の輸送、緊急物資、復興資材の輸送、応急対策機関として救援物資の受入れ搬送を行った。



昭和30年ふくい祭り



(写真/荒川重幸殿提供)

昭和24年3月

福井市御園町8番地に協会事務所を置く[日本通運(株)福井支店内に設置]

昭和25年2月

陸上貨物運送事業者に広く働きかけて、組織を発展的に改組した福井県トラック協会を創立、会長に福井急行トラック(株)社長巨椋初蔵が就任

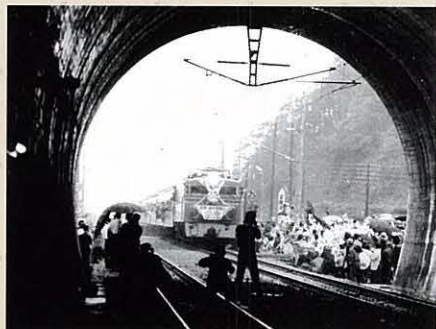
昭和31年7月

日本通運(株)福井支店長 藤崎梅太郎が会長に就任

昭和33年 ▶ 昭和42年

第2期

- 昭和33年1月 ● 日本通運(株)福井支店長 福井直が会長に就任
- 昭和33年10月 ● 国道8号線武生トンネル有料道路供用開始
- 昭和35年5月 ● 日本通運(株)福井支店長 川合輝雄が会長に就任
- 昭和37年4月 ● 北陸トンネル開通、北陸線は復線電化され福井まで供用される
- 昭和37年4月 ● 国道8号線杉津～春日野間有料道路供用開始
- 昭和38年1月 ● 38豪雪、1月上旬から集中的降雪となり、福井市内で最高積雪213cm
総降雪量563cmに達し約20日間完全交通マヒとなる



北陸トンネル開通(写真/今立 汎殿提供)



- 昭和38年2月 ● 日本通運(株)福井支店長 石藤一三が会長に就任
- 昭和39年3月 ● 日本通運(株)福井支店長 山口政隆が会長に就任
- 昭和40年4月 ● 数次に亘る経済変動や産業活動の飛躍的進展にともない、陸上運送業界も時代の変化に対応して近代化を進める必要性が生じ「中小企業近代化促進法」の指定業種の認可を受けて、昭和47年までの約6年間業界あげて各種施策の推進に努めた。この間の貨物運送業の現状分析では、昭和47年までに、輸送量では、200%増・収入益で、270%増更に、将来予測として、昭和60年までに300%増を予測している
- 昭和42年2月 ● 日本通運(株)福井支店長 木村藤一郎が会長に就任
- 昭和42年6月 ● 福井市江端町37字金剛寺43の2社団法人福井県自動車会議所に事務所を置く
- 昭和42年8月 ● 日本通運(株)福井支店長 稲垣利貞が会長に就任

昭和43年 ▶ 昭和52年

第3期

昭和43年

福井国民体育大会が開催される



(写真/福井県運動公園事務所提供)

昭和45年2月

福井貨物自動車(株)社長 藤尾定尾が会長に就任

昭和47年1月

中部交通共済協同組合に加入

昭和48年10月

丸岡I.C~小松I.C間、北陸自動車道の一部開通



昭和49年福井市中央卸売市場開場
(写真/福井市市場管理事務所提供)

昭和49年9月

名古屋陸運局長から社団法人設立、発起人代表 藤尾定尾氏に設立許可
交付 社団法人福井県トラック協会となる
発起人 三浦房治、有馬義夫、藤田 誠、坪田 栄、田中善武、笹原哲哉
森田四郎、神戸金作
加入会員数 165事業者(団体2)、車両 2,210両、従業員 5,810人

昭和51年4月

運輸事業振興交付金の指定を受ける(会員179事業者)

昭和53年 ▶ 昭和62年

第4期

50th HISTORY

昭和53年7月 ● 福井港開港



(写真／福井港湾事務所提供)

昭和54年6月 ● 福井市西谷1丁目1401 福井県自動車会館に事務所を移転

昭和55年4月 ● 敦賀I.C～米原I.C間、北陸自動車道開通、名神高速道と接続する福井県下全線開通



北陸自動車道、敦賀～米原開通
(写真／日本道路公団北陸支社)

昭和56年1月 ● 56豪雪、最高積雪196cm、総降雪量622cmで約1週間に亘って完全交通マヒとなる

昭和62年5月 ● 富士運送(株)社長 岩岡正徳が会長に就任

昭和63年 ▶ 現在

第5期

50th HISTORY

- 平成2年 7月 ● 福井県トラック厚生年金基金の設立許可となる
- 平成2年12月 ● 物流二法(貨物自動車運送事業法、貨物運送取扱事業法)の施行に伴い、免許制から許可制となる
● 民間団体等による貨物自動車運送の適正化に関する事業の推進について、一通達一で、適正化事業開始
● 事業者数296、車両数6,235両
- 平成4年 5月 ● 10月9日を「トラックの日」に制定する
- 平成6年10月 ● 福井市別所町第17号第18番地の1に福井県トラック総合研修会館を新築し、事務所を移転
- 平成6年12月 ● 福井貨物自動車(株)社長 藤尾繁郎が会長に就任
- 平成7年 1月 ● 阪神・淡路大震災が発生、県トラック協会は県の要請を受けて、緊急救援物資の輸送と会員事業所からの義援金を現地に届ける
- 平成9年 1月 ● 1月7日「ロシアタンカー・ナホトカ号」による重油漂着事故が発生、県トラック協会では、福井県との申し合わせに基づいて1月10日「重油漂着緊急対策本部」を設置し、重油回収用ドラム缶等の緊急物資輸送を行った。
- 平成9年 4月 ● 週40時間制の法定労働時間がトラック事業にも適用、2年間の指導期間が設けられる。また、労働時間短縮自主点検事業実施団体に県トラック協会が指定される
- 平成9年 4月 ● 消費税5%となり、消費低迷現象となる
- 平成9年 8月 ● 「ロシアタンカー・ナホトカ号の海難流出油災害」の災害応急対策に貢献した活動により、古賀運輸大臣から感謝状を受ける。
- 平成10年4月 ● 事業者 392、車両 8,843両





ロシアタンカー重油被害救援



ぶくい祭り参加

福井県 トラック協会の 役割



防災訓練



市民交通安全指導

■ 地域・社会貢献

まだ記憶に新しい阪神大震災。福井県トラック協会では近畿府県のトラック協会とともに、物資・医療救護などを目的に出動しました。また「ロシアタンカー重油流出事故」においても、ドラム缶の供出をはじめ、緊急物資輸送などを担当。社会と共生し、地域住民の生活に根ざした社会貢献の在り方を考え行動しています。

■ 事業者安全促進支援

会員事業者の交通事故と労働災害事故の防止は、福井県トラック協会の重要な活動のひとつ。定期的な安全作業への指導とともに、無事故ドライバーの表彰「チャレンジ109」などの活動を行っています。



■事業者経営支援

会員事業所の健全な経営体質をバックアップするために。福井県トラック協会では協会内に研修会館を整備するとともに、定期的な経営セミナー、新時代に対応する物流セミナーを実施しています。



セミナー



総決起集会

■環境対策

地球に優しいトラックであり続けるために。低公害車の導入促進や「アイドリングSTOP、ドライバー9,000人宣言」などを実施。プロドライバー自らが環境に優しい運転を実践しています。



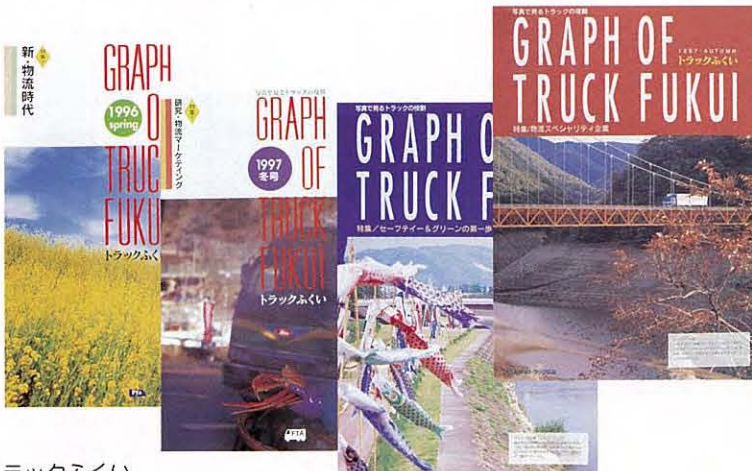
交通安全対策

プロドライバーとして交通ルールを順守するとともに、広く社会に「交通事故ゼロ」の呼びかけを実施。全国交通安全期間における街頭活動、小学校における交通安全教室などを行っています。



■広報活動

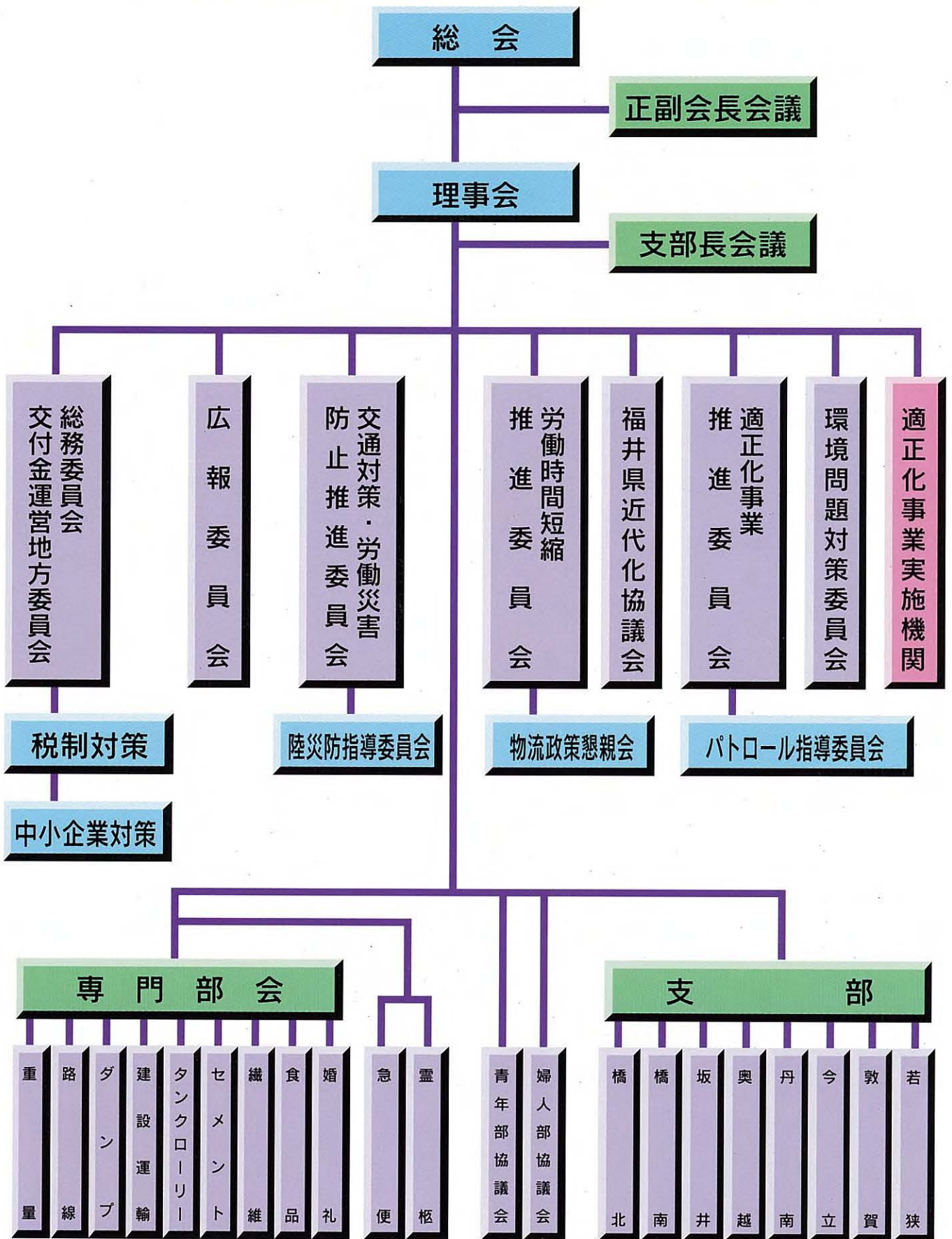
県民にトラック業界の役割を理解してもらうことも、福井県トラック協会の重要な役割です。テレビ、ラジオの広報、機関誌「トラックふくい」の発行、「トラックの日」のイベント活動などを通じ、県民に広くアピールを行っています。



トラックふくい



社団法人 福井県トラック協会組織図



編集後記

皆様のご協力のもと、「福井県トラック協会創立50年記念史」が無事発行の運びとなりました。ご祝辞をいただいた方々、さまざまな情報を寄せていただいた関係者の方々に深く感謝いたします。

まもなく21世紀を迎えようとする1998年。今後も私たちは、会員事業者・協会発展のため、一層の努力を行ってまいります。



福井県トラック協会職員一同

山	上	青	中	清
下	藤	山	村	水
	野	川	山	

社団法人 福井県トラック協会創立50周年記念史

発行日 平成10年5月1日

発行者 社団法人 福井県トラック協会

編集 社団法人 福井県トラック協会
(株)名響社

FUKUI TRACK ASSOCIATION
THANKS
50th

 **社団
法人 福井県トラック協会**

〒918-8115 福井県福井市別所町17-18-1
(福井県トラック総合研修会館内)
TEL.(0776)34-1713